



こころふれあう町民のつどい観劇会

家族のための応援歌「喜びも、悲しみも、同じ屋根の下」



第3回 ふれあいうエーブ講座 - 室津「海駅館」「民族館」見学 -

10月30日の午後、講座生17名(「わくわく人権塾」から2名参加)は、揖保郡室津へ視察に行きました。「海駅館」には、朝鮮通信史関連の資料も展示されており、江戸の将軍へ親書を届けるために、約500人を乗せた大船団が必ず寄港したそうです。現在、日朝国交正常化が問題となっていますが、江戸時代に室津でこのような大規模な交流があったことに、みなさん感慨深そうでした。



劇団シアターOM(想夢)の紹介

主宰者：稲森 誠

稲森 誠プロフィール(昭和36年6月13日生まれ)

芸歴

テレビ: NHK「やんちゃくれ」「終のすみか」他。MBS東芝日曜劇場「命の現場から・・・」他。KTV「たかじんの胸いっぱい」生コメレギュラー他。ABC「新・部長刑事」他
映画: 「陽炎」「2・26」他
その他、シアターOM作品の脚本、演出、出演を手がける。

シアターOMは一九八九年に結成された劇団。現在、CM、TV、ラジオなどのマスコミ、イベントで幅広く活動している。
演劇では、一九九六年より、個性的で魅力のある舞台作りを行うため、オリジナル性を重視した、楽しくエネルギー溢る舞台を目指している。
活動は舞台演劇にとどまらず、子ども向けのオリジナルミュージカル公演や学校向けの演劇活動も行っている。

手

播磨南中学校一年 松田 浩平さん

今年八月の「差別をなくそう強調月間」啓発活動の一環として、小・中学生から人権詩を募集しましたところ、多くの応募がありました。
今回は、そのなかから、「家族」に視点を当てた「手」という詩をご紹介します。

父の手
長い指の大きな手
その手でどれだけの火事を消し
人を救ったのだろう

母の手
ふくよかな手
その手でどれだけの子供を抱き
優しくあやしたのだろうか

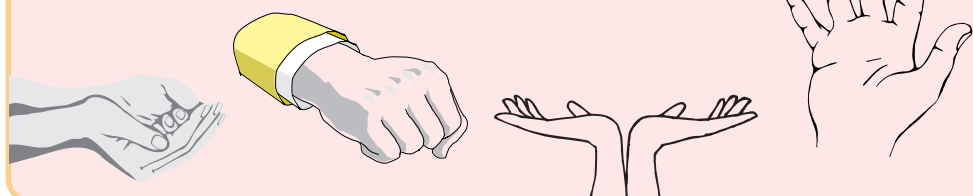
祖父の手
ゴツゴツした大きい手
その手でどれだけの道のりを
ディーゼル機関車で走ったのだろうか

祖母の手
しわがきざみこまれた手
その手でどれだけの花嫁に着つけし
幸せを祝ったのだろうか

世の中には
いろいろな数えきれない仕事がある
いろいろな数えきれない手がある
いろいろな数えきれない手がある

しかし
一生懸命に働く手はどの手もすばらしい
なくてはならない手だ

ぼくの手
父と母の手に似てきた手
さあ
ぼくはどんな手になっていくのだろう



日時 12月8日(日)
午後1時30分～3時30分(受付:午後1時～)

場所 播磨小学校体育館

内容 人権劇

タイトル 家族のための応援歌「喜びも、悲しみも、同じ屋根の下」

入場料 無料(上履きをご持参ください)
できるだけ徒歩または自転車でお越しください。



シアターOMのみなさん

あらまし
リストラされた父親、縁談を断られた娘、受験を失敗した息子、そのすべてをしょいこみノイローゼになった母親、崩壊寸前の家族が、唯一のより所として父親の実家がある播磨町へ身を寄せる。
実家は、祖父ひとり暮らしであったが、さりげない気遣い、近所の温かみに支えられ、家族としてのふれあいを少しずつ体験していく一家。
そんなとき、次なる不幸が..... はたして、この一家は「家族の絆」をとり戻せるだろうか。

十二月四日～十日は人権週間

一九四八年、国連は世界人権宣言採択の日を記念して十二月十日を「人権デー」と決めました。そしてその一週間前(十二月四日から十日まで)を「人権週間」とし、世界人権宣言の意義を訴えるとともに人権尊重の考えの普及高揚に努めてきました。今年で第五十四回を数える人権週間、各地で様々な行事が実施されます。播磨町も人権啓発「こころふれあう町民のつどい」を計画しました。今年には播磨町オリジナルの人権劇を皆さんに見ていただこうと思えます。どこにでもあるような様々な人権問題について家族を中心にわかりやすく劇にしました。ぜひ、ご参加ください。